

1 好塩基球の著明な増加を認めた小児慢性
2 骨髄性白血病（CML）の一例

3
4 ○江崎利恵子 澤田朝寛 千木良紀子 森本愛 喜
5 納勝成 古谷津純一 石和久（順天堂大学浦安病院
6 臨床検査医学科）

7
8 【はじめに】小児科領域において、慢性骨髄性白血
9 病の頻度は比較的稀とされている。今回我々は初診
10 時に好塩基球数の著明な増加を認めた小児慢性骨髄
11 性白血病（CML）の一例を経験したので報告する。

12 【症例】8歳、男児、主訴は発熱、全身倦怠感。平
13 成20年4月10日、当院外来受診。

14 【検査所見】外来時の自動血球計測装置における血
15 液検査所見は、白血球数（WBC）19万6700/ μ l、
16 赤血球数（RBC）205万/ μ l、ヘモグロビン濃度
17 （Hb）6.4g/dl、血小板数（PLT）3千/ μ lとW
18 BCの著明な増加、HbおよびPLTの著しい減少
19 を認めた。目視法における白血球分画は好中球
20 10.5%、リンパ球1.5%、単球1.0%、好酸球5.5%、
21 好塩基球79.0%、芽球1.0%、骨髄球1.5%と好塩
22 基球の著明な増加を認めた。生化学検査所見は総蛋
23 白6.0 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、AST8IU/l、
24 ALT5 IU/l、LDH226 IU/l、BUN10mg/dl、
25 Crea0.34mg/dl、ALP301IU/l、CRP0.3 mg/dl
26 であった。検査所見において血液性疾患を強く疑い
27 血液検査室より外来に連絡し、精査目的で緊急入院
28 となる。血小板輸血等の加療療法を行い同月13日に
29 順天堂医院転院。順天堂医院にて骨髄検査の結果、
30 好塩基球系細胞の著明な増加を認めた。染色体解析
31 所見において、BCR-ABL 融合シグナルを認めたため、
32 CMLと診断。現在、イマチニブを併用して化学療
33 法を行い、経過観察中。

34 【まとめ】末梢血液像にて著明な好塩基球の増加を
35 契機に診断し得た小児慢性骨髄性白血病（CML）
36 を経験した。CMLは小児では比較的稀とされてい
37 るが好塩基球が著明に増加する場合には、積極的に
38 鑑別する必要性を感じた。